大分大学教職大学院
教職大学院2年間の学修の総まとめとしての教育実践研究フォーラム
（パネルディスカッション：「地域社会からより信頼される教職員・学校となるために」）

フォーラムの目的：

教職大学院における2年間の学修・研究の成果を，関係者等に発表し共有することで，広く大分県の学校に波及効果をもたらし，学校改善につなげる。また，この過程の中で紡ぎ出された課題について協議する場を設けることにより，教職大学院の使命や存在意義を問い直す。

フォーラムの内容：

第1部教育実践研究報告会と第2部パネルディスカッションからなる。今回は「信頼される教職員・学校」を軸として，学修・研究の実践的意義を共有する構成とした。第1部と第2部は不可分の関係にあり，それを覚醒させる営みこそが教職大学院の使命であることを進行の中で随時確認した。

日程・参加者等：

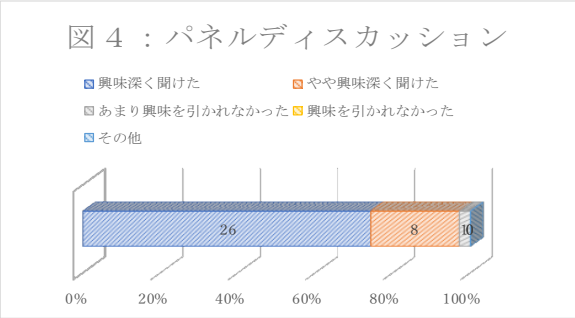
参加者の対面交流を重視し，対面のみの開催方式をとった。令和6年2月16日(金)12:50～17:00に実施した。参加者は84名，教職大学院の関係者を除くと，教育委員会関係14名，学校関係13名，本学教育学部同窓会5名の参加であった。

成果と課題：

平日午後の開催であったが，多数の関係者の参加があった。第1部の報告会は若干窮屈な設定であり，ゆとりをもった交流への要望があった。パネルディスカッションは，フロアーとの意見交換も充実しており，壇上だけの遣り取りに終始せず，活気溢れたものとなった。

第1部教育実践研究報告会の様子。現職院生が実践研究の成果を発表し，学校長や指導主事等が聞き入っている。現職院生のアクション・リサーチの質の高さから深い質問が誘発され，もっと多くの議論の時間が欲しいとの要望が数多く寄せられた。

第2部パネルディスカッションの様子。佐藤裕一中部中学校長（当時）から「学校教育目標達成に向けた地域連携・協働」，三浦一雄教育次長（当時）から「高等学校改革（魅力化）と学校への信頼醸成」などの発言があり，それらに対してフロアーから熱気溢れる意見表明があった。意見交流はとても小気味よく進み，多くの発言が引き出せた。



第2部パネルディスカッションの関心度である。「その他」の肯定的な意見を含めると，100%の関心度であった。自由記述も精査して，次年度につなぎたい。